

ypinit, ypwhich, ypserv, ypbind, ypcat の主な使い方

徳久

参考文献

- <http://www.linux.or.jp/>のマニュアルページ
 - 日本の Linux 情報サイト
 - JM:日本語オンラインマニュアル
- 書籍 : RedHat Linuxで作るネットワークサーバ構築ガイド

NIS(Network Information Service)

- ネットワークにおけるディレクトリサービスのひとつ
- ユーザ名、パスワード、グループ名などの情報を集約して扱うための仕組み
- NISドメイン
 - NISによるサービスを利用するホストの集まり
- NISサーバ
 - NISドメインにおける情報を一括して管理
 - 同ドメイン内に複数台設置可能
 - 一台をマスターサーバとして、残りをスレーブサーバとして動作
 - マスターサーバはスレーブサーバに定期的にNISデータベースを送る

NISデータベース

- NISで必要なデータをデータベース化したファイル
- /etc/にあるpasswdやgroup、hostsなど
- /var/yp/Makefileで必要とするサービスを編集可能

ypinit

- ・ NISデータベースの作成

`/usr/lib/yp/ypinit [-m] [-s master_name]`

`-m` : マスターサーバの設定

- 対話式
- スレーブサーバのホスト名を一行ずつ入力
- Ctrl+Dでスレーブサーバの入力を終了
- 確認メッセージが出るのでyを入力すればNISデータベース作成開始
- root 権限で実行する必要がある

`-s master_name` : スレーブサーバの設定

- NISデータベースを *master_name* から取得
- マスターサーバが動作している必要がある

ypwhich

- NIS サーバー名を出力

`ypwhich [-d domain_name]`

`-d domain_name` : デフォルトドメイン以外のドメインを指定

- データベースマップのリストを出力

`ypwhich -x`

ypcat

- NISデータベースの内容を出力

`ypcat [-d domain] [-h hostname] mapname`

`-d domain_name` : デフォルトドメイン以外のドメインを指定

`-h hostname` : デフォルトのホスト名以外を指定

`mapname` : `passwd`や`hosts`等のNISサーバで配布するマップを指定

ypserv、ypbind

- NISサーバの起動コマンド
`ypserv`
- NISクライアントの起動コマンド
`ypbind`